



TOHOKU  
UNIVERSITY

2016.5.26@東北大学災害科学国際研究所 1階 会議・セミナー室

# 熊本地震被災地支援 東北大学生ボランティア活動報告会

## 報告者

藤室玲治 (課外・ボランティア活動センター 特任准教授)

畠山弓穂 (HARU代表: 文学部2年)

西塚孝平 (HARUスタッフ: 教育学部3年)

今本亘 (SCRUMスタッフ: 文学部2年)



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 本日の発表内容

1. 本派遣の経緯・目的 (5分)
2. 派遣スタッフの動き (3分)
3. 各活動に対する「気づき」 ～ボランティアスタッフとしての目から～ (30分)
  - A. 熊本市内での避難所実態調査
  - B. 美里町でのガレキ撤去活動
  - C. 御舟町での足湯ボランティア活動
4. 派遣学生による総括的評価 (7分)
5. 質疑応答 (15分)
6. 藤室より ～被災地の詳細な報告・今後の方向性・質疑応答～ (30分)



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 1. 本派遣の経緯・目的

## ● 派遣の経緯

- ・基礎ゼミ「ボランティア活動と地域課題」受講者から熊本地震ボランティアについて問い合わせのメールが藤室にあり、現地への学生派遣について模索していた。
- ・HARU顧問の村松先生からHARUの学生を熊本に派遣できないか連絡あり 課外・ボランティア活動支援センター長の小田中先生が熊本大学にお見舞いのメールを出し、ボランティア支援のノウハウ提供について申し出たところ、受け入れ可とのご返事をいただけた。



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 1. 本派遣の経緯・目的

## ●派遣の目的

- ・東日本大震災被災地にある大学としての大規模自然災害被災地への貢献
- ・熊本大学の学生ボランティア支援に関する助言・アドバイス
- ・学生ボランティア同士の経験交流



TOHOKU  
UNIVERSITY

## 2. 派遣スタッフの動き

5月2日(月)... 藤室・西塚・畠山が熊本市入り

- ・熊本大学の学生ボランティアとの交流・意見交換
- ・「熊助組」との交流・意見交換

5月3日(火)... 今本が熊本入り

- ・「熊助組」と美里町で木材撤去の活動
- ・熊本市内の避難所実態調査

5月4日(水)... 「熊助組」との活動

- ・美里町でガレキ撤去の活動
- ・熊本市内の避難所実態調査

5月5日(木)... 派遣学生の帰仙

- ・御船町で足湯ボランティア活動

5月9日(月)... 藤室、帰仙





TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」

- A. 熊本市内での避難所実態調査
- B. 美里町でのガレキ撤去活動
- C. 御舟町での足湯ボランティア活動



TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

- 中央区を中心に調査
- 内容
  - ・ 現状に至るまでの経緯
  - ・ 現在の問題...など



図: 熊本市ホームページ



TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

- 改善されるべき避難所の環境
- 運営者・避難者の心境







TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

●避難所中心人物への聞き込み

⇒「被災者」と「運営者」の二面性





TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

- 体験談・過去の仮定

「届く物資が需要に対して時期的にミスマッチだった」

「マニュアルがあったらよかったのに」

- 市に対する不満

「市の職員の入れ替わりが激しい」

- 現状への保守的態度

「物資で今必要なものは特にない」



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」

## 避難所への支援

◎支援の必要性

△ボランティアへの具体的要求

△ボランティアの受け入れ態勢

△外部ボランティアの参加状況



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」

## ● 傾聴活動

### ボランティア

- ▽ニーズの発掘
- ▽被災者の心情・状況理解

### 避難者・運営者

- ▽不安・苛立ちの吐露
- ▽言葉にすることでの整理





TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

- 生活を豊かにする  
ボランティア
- 集約先との  
連携・信頼関係







TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」

- A. 熊本市内での避難所実態調査
- B. 美里町でのガレキ撤去活動**
- C. 御舟町での足湯ボランティア活動



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」







TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

- 支援者が述べる「感謝の言葉」の意味
- ネットワークの構築





TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

#### ● 支援者が述べる「感謝の言葉」の意味

- ・ 多くのやりがいを感じる活動

未来につながる多様な支援のあり方を、  
実際の活動の中で明らかにし、伝える







TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」

## ● ネットワークの構築

- 信頼関係の構築
- 後方支援







TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」

- A. 熊本市内での避難所実態調査
- B. 美里町でのガレキ撤去活動
- C. 御船町での足湯ボランティア活動



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」







TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」

## ●事前研修の実施





TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

- ナラティブ（物語的）な見方
- 東北の支援活動との比較





TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

#### ●ナラティブ(物語的)な見方

①「今は静かだけど夜はすごい人が来る。寝に来る。いびきかく人もいるから、俺が寝れるのは夜中も夜中。学校が始まるんで出てかなきゃ行けないけど、行き先はない。テントで野宿かなあ。」

②「昨日まで自宅にいた(ここから15分くらい徒歩できた)。役所のほうから移るよう言われ、今日からこの避難所に...」「脳しんとうで腕にしびれがある。」





TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

#### ●ナラティブ(物語的)な見方

③「散歩はするけどあとは外に出て運動とかはしない」「朝晩がとても寒くて、昼がかなり暑い。」「(隣にいた家族の話を耳にして)今日はようしゃべる。いつもはそんなに話をしないのに。」

④「子どもたちがはしゃいでホコリがたつ。だから普段からマスクをしてるんです。」「散歩はするんですけど、避難所でやられている活動には参加しないねえ。」



### 3. 各活動に対する「気づき」

#### ● 東北(山元町)の支援活動との比較(HARUのつぶやきカード)

①手もみを喜んでいただいた。普段はお孫さんのお世話をしている。午前中しか働ける時間がないとなかなか仕事が見つからない。仮設住宅の窓が小さくて換気しづらい。毎日ラジオ体操をしている。仮設ではよく手芸などをしている。仮設の人達の仲が良い。

②よく笑う明るい方。仮設はほこりとカビがひどい。特に風呂場のカビがひどい。冬は結露がひどい。



TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

#### ●東北(山元町)の支援活動との比較(HARUスタッフの声)

・期待と不安が入り混じっているような状態。

ニコニコとしてお孫さんの話や趣味の話をしている方でも先の見えない不安で、いつになったら仮設を出れるのか、また同じような震災にあうのではないかと仰っている方もいる。

・ほかの話をしていても震災の話に行きついてしまうなど、震災当時の話をされる方が多い。仮設に残る方が焦りなどを感じないように、住民が減ってきたときにこそ必要な活動であるように思う。



TOHOKU  
UNIVERSITY

### 3. 各活動に対する「気づき」

#### ●東北(山元町)の支援活動との比較(HARUつぶやきカード・スタッフの声)

#### 【話題】 (2015年)

- 震災直後の話 (家も土地も全て失った)
- 現在の話 (仮設の中にお友達ができて良かった/買い物に行くのが不便)
- 自身の過去の話 (若い頃は東京で空襲に遭い、今は津波に遭って人生いいことない)
- △ 趣味の話 (手芸やカラオケ)
- △ 地元の話 (特産物など)
- × スタッフについての話

表には出てこないニーズによりよく気づき、解決のために行動をする





TOHOKU  
UNIVERSITY

# 3. 各活動に対する「気づき」

● 衛生環境の確保

● 人間関係の構築



人間関係を豊かにするための支援



## 4. 派遣学生による総括的評価

(西塚)

- ボランティア 「あらゆる手段や考え方を尽くして、様々な可能性を導く」
- 私たちの活動スタイルや考え方を、実際に現地での活動を通して示す
- what to bring と what to expect を確かにもつ

(畠山)

- 信頼関係を築くための長期的な関わりの必要性
- 活動の基本: 被災者の「生の声」を聞き、読み取り、活かす